

第1章
思いを
つなぐ
ひと

じゅんさい摘み採り体験／山本明弘(株式会社秋田山一)

ピエーノ デイソーレ

渡辺英心(英心&The Meditatonaires)

竿燈まつり／貴志冬樹

(上米町二丁目竿燈会・秋田市民俗芸能伝承館)



じゅんさい摘み採り体験

秋田空港に降り立ってまっすぐ向かったのは、秋田県北西部にある三種町。じゅんさいの生産量日本一を誇る町です。表面を覆うヌメリのつるんとしたのどごしと、プツンとした食感で人気のじゅんさいは、環境や水質の変化に敏感。ですが、ここ、三種町森岳地区は、世界自然遺産・白神山地の裾野に位置し、じゅんさい沼に絶えず清らかな水が流れ込んでくるため、じゅんさいづくりに最適なのだそうです。



例年5月から8月下旬まで収穫作業が行われており、小舟に乗って摘み採りする風景は三種町森岳地区の初夏の風物詩。しかしながら、生産者の高齢化が進み、担い手不足はいよいよ深刻な状況にあるとのこと。そんななか、なんとかじゅんさい沼を守ろうと、摘み手の育成と全国各地の飲食店への取引を進める株式会社秋田山一の、山本明弘さん(37歳)にお話を伺います。

と思ったのですが……

高橋 こんにちは。
山本 山本です。よろしくお願ひします。優さんは、じゅんさい摘みされたことありますか？
高橋 いえ、ないです。
山本 ではぜひやってみませんか？
高橋 いいんですか？
山本 沼の上で教えたほうが早いです。
高橋 お〜！
という事でまずは、じゅんさいの摘み採り体験をさせていただくことに。





くということ初めて実現させていた
 だいたんです。
高橋 山本さんのお家はお寿司屋さん
 だって伺いました。
山本 はい、元々、家は寿司屋さん
 ですけど、親父の手伝いで仕入れをし
 ていたんですよ。県外にいた時期があ
 るんですが、魚はもちろん、野菜も秋
 田ですごく良いものがいっぱいある
 のに、県外では全然見なかったんです
 よね。だから、売れる人間がしっかり
 外に伝えていこうということで、秋田
 県内の農家さんと契約して、東京、大
 阪、福岡……と、全国に発送する会社

を作ったんです。
高橋 じゃあ、じゅんさいに限らず、
 秋田の野菜全般を？
山本 はい。でも一番最初に、じゅん
 さいからスタートしました。
高橋 へ〜！
山本 だからじゅんさいには思い入れ
 も強いですし、会社を大きくしてくれ
 たのはじゅんさい、というのもあるん
 ですけどね。なので、大きなコンテナ
 っていう思いがあります。
高橋 一番最初にじゅんさいにフォー
 カスを合わせたのは、何か理由があっ

たんですか？
山本 やっぱ日本一だからですね。
 秋田の中でも珍しいじゃないですか。
高橋 そうですね。
山本 他の県にもほとんどない。
高橋 ちなみに日本の中で、この三
 種町のじゅんさいの生産量ってどれ
 くらいの割合なんですか？
山本 9割ぐらい。
高橋 9割！
山本 それでもピーク時は1200
 トンあったものが、いまはだいたい
 300トンとか。
高橋 摘み手が減っているとおっし
 やってましたね。



山本 そうですね。摘み手
 さんの平均年齢が、70歳を
 超えているっていわれてま
 すからね。やっていただい
 たのでわかると思うんです
 けど、全部手作業で、かな
 りの重労働なんです。
高橋 そうですよ〜。
山本 いくらそのとき売れ
 ても、収穫期の3カ月くら
 いだけで1年生活できるほ
 ど稼げるわけじゃないので、
 米農家さんの合間の作業と

して、田植えをして、じゅんさいやっ
 て、じゅんさい終わったら稲刈り……
 と。じゅんさいを専業にしている人
 てあまりいないんですよ。元々、減反
 (減反政策…米の生産調整を行うために、
 米作農家に作付面積の削減を要求した戦
 後日本の農業政策)した沼をどう活用
 するかということから大きくなって
 った産業なので。元々みんな米農家
 なんですよね。
高橋 こも元々は、田んぼだったん
 ですか。
山本 そうですね。10年前くらいは。



時間を忘れて黙々とじゅんさいを摘み続ける。



高橋 あった！この下、全部ヌメ
 メしてるんですね。
山本 だんだん目が慣れてきますから。
 山菜採りみたいなもの。
高橋 あー！ほんとだー！！



沼を引き継ぐということ

高橋 いやあ、はまりますね。
山本 でも2〜3時間もやると動けな
 くなっちゃいますよ。腰にくるので。
高橋 あくたしかに。そもそも山本さ
 んはどうしてじゅんさい沼を？
山本 三種町は日本を代表するじゅん
 さいの産地なんですけど、高齢化と後
 継者不足で、摘み手がいなくなっ
 て。
高橋 うんうん。
山本 それはなんとかしなきゃってこ
 とで、うちは秋田市の、つまり町外の
 農業法人なんですけど、そんな僕たち
 が沼を借り受けて、沼を引き継いでい





ベーコン、ズッキーニ、そしてたっぷりのじゅんさいが色鮮やかです。

じゅんさいの摘み採りを存分に楽しんで後は、三種町にある「ピエーノ デイソーレ」という石窯ピザのお店でランチ。じゅんさいといえば、お吸い物に入っていたり、小鉢に入ったものをポン酢でいただくような、和のイメージが強いですが、こちらのお店ではなんと「じゅんさいピザ」が食べられるとのこと。今回は特別に、高橋優自ら摘んだじゅんさいを使ってピザを焼いていただきました。

じゅんさいピザ



400度にもなる石窯の中に1分半。じゅんさいを下茹ですることなく、一気に熱を加えます。短時間で焼くことで、プチとした食感そのままに仕上がるのだそうです。



高橋 田んぼだったところを沼にしたら、自然にじゅんさいができるというわけではないですよ。え？
山本 はい、苗を植えます。
高橋 その苗はどこから採ってくるんですか？
山本 だいたい、仲間から買ったたり、譲ってもらったり。だから、沼は約10年に一度全部水を抜いて植え替えるんです。雑草やヘドロを取って、乾かして、そこに苗を植えて、再び水を入れて、それが収穫できるようにするまで3年くらいですね。だから、沼をいくつも持っている人でないと、新しい沼って作れないんですよ。1面しかなかったら、収穫できなくなっちゃいますから。
高橋 秋田県って、田んぼや畑をやっている人はいっぱいいるけど、高齢になって、自分ではできなくなってしまう耕作放棄地がいっぱいありますよね。そういう場所に、山本さんみたいな元気な人がやってきて「ここに植えようぜ！」ってやったら、こんな景色になるかもしれないってことですよ。え？
山本 そうですね。あと、うちは畑も持っていて、春に苗を植えて、夏場にじゅんさいを採って、秋には春に植えたものを収穫する。冬場は農家は仕事

が少ないので、酒造りに行く。要は人材のシェアリングをしている、そういう会社なんです。会社である以上、社員を食べさせないといけないじゃないですか。
高橋 ええ。
山本 じゅんさいだけでは食べていけないので、この時期はこれ、他の時期はこれ……と、年間で収入を得るような仕組みを作らないと、じゅんさい沼は守れないだろうっていうのがわたしたちの結論なんです。でも、これからじゅんさいは、観光資源としても重要になってくると思いますし、おそらく他では作れないものとして、より価値が上がると思います。三種のじゅんさいのポテンシャルは相当高いですから。
高橋 実際じゅんさい摘み、楽しいですよ。え？
山本 森岳には温泉もあるので、日中はじゅんさい摘んで、そのあと温泉入って泊まって帰ってもらえたら。
高橋 それ最高ですね！



副住職はミュージシャン?!

続いて向かったのは同じく三種町にある曹洞宗寺院、松庵寺。副住職の渡辺英心さん(35歳)はミュージシャンとしても活躍されています。リーダーでボーカルを務めるレゲエバンド「英心&The Meditations」では、自ら作詞・作曲を手がけ、ラテンやサンバなど中南米の音楽に仏教の教えを盛り込んだその楽曲が注目を浴び、初アルバム『からっぽ』(2015年)が、老舗音楽雑誌が選ぶ国内レゲエアルバム1位に。この春には、本堂の仏具を鳴らしながらポップ・マーリーの『スリーリトルバーズ』を歌った動画がSNSで大反響を呼び、新型コロナウイルス感染拡大で重苦しい雰囲気が漂うなか、その前向きなメッセージが多くの人に勇気を与えました。そんな英心さんと高橋優、今回が初対面というわけではなかったようです。

高橋 以前、飲み屋でお会いして以来ですよ。

英心 そうですね。たまたま居合わせて、たくさんお話を伺いました。

高橋 3年以上前ですよ。今日は久



学ばせてもらうことも多かったです。僕なりに勇気づけようとして行った行動だけど、すべての人がそれを受け入れられるわけじゃなくて。それで僕を攻撃した人が、ツイッター上の僕のいない場で「頭が固い」とか「老害は去れ」とか言われてるのが、もう見ていられなくて。仏教では、生きてる限り人間は絶対に罪を作っている、自分がどんなに良い行いをしていると思っても生きていても、必ず罪を作ってしまうって、仏さんが言ってるん



高橋 なるほど、ある意味でとても良い機会になったというか。

英心 そうですね。

高橋 動画を作ろうと思ったきっかけはあったんですか?

英心 コロナ禍だったので、この場所から動かずしてできること、普段やらないようなおもしろいことができたかと思っ。そのときに何の歌がいいかなと考えてたら『スリーリトルバーズ』がハッと浮かんだんです。思いつきですよ。それで妻と、子供がここで遊

しぶりにお会いできてうれしいです。
英心 いえいえこちらこそ、ありがとうございます。

高橋 なんだか最近動画がバズったと聞いて、さっき見せてもらいました。

英心 そうなんです。ツイッターとフェイスブックで、ひとり歩きしちゃって大変だったんです。

高橋 何か反響があったんですか?

英心 海外からの反響がすごく大きかったです。

高橋 そうなんです。

英心 有名な曲ですし、わりと海外受けするような感じに仕上がってしまったので。ブラジルの医療関係者の方から、すごく勇気づけられたとメッセージをいただいたり、基本的には好意的な反応が多かったんですけど、たまにご理解いただけないお坊さんが攻撃してくられることがあって、その攻撃に対して、外野の方がまた攻撃するみたいな構図になっちゃって。「ごめんさ、わたしがそんな争いを作ってしまったんです、申し訳ない」という感じで。バズらないに越したことはないと思いましたが、今回は。

高橋 そうなんです。

英心 でも今回バズったことですよ

ぶなか弾き語りを撮って、いろいろ仏具を重ねていきました。

高橋 こういうお寺にある仏像には、楽器を持っていらっしやるのもいいじゃないですか。

英心 そうですね。

高橋 それを見てたら、お寺って昔のライブハウスっていう解釈もできるのかなって思ったことがあったんです。実際ここでそういう集まりみたいなことも昔はあったんですか?

英心 あったと思いますよ。公民館が



ですね。それが昔はよくわからなかったんですよ。「良い行いをしているっていうことは罪を作ってるっていうの逆じゃない?」と思っってたんですけど、「そっか、自分があの動画をあげたせいで、この人があのすごい攻撃を受けてることになってしまったんだ」と思うと、なるほどこういうことかと。だから毎日あなたたちは懺悔をしないって言われるんですね。毎日ごめんさ言って言いなさいと。その意味がやっとわかったっていう感じですね。

ないときは、全部お寺でしたらからね。
高橋 もしその時代にツイッターがあつて、それを動画であげたとしたら、同じことが起こりますよね、きっと。

英心 あゝそうですね。

高橋 懺悔のお話も僕はすごく感銘を受けたんですけど、そういったことを含めて、あの動画大好きです。

英心 うれしいです。

高橋 そう思ってる人がいっぱいいるから多くの反響を呼んだんだと思います。

英心 良かったです。わたしが励まされてしまいましたね。

ブラジルで気づいた自分のルーツ

高橋 バンド（英心&The Meditations）の活動の始まりも、わりと衝動的なものだったんですか？

英心 そうですね……。東京でも音楽活動してたんですけど、秋田に戻ってくる前にブラジルに行っていて、ブラジルから東京に帰ってすぐ秋田に戻ってきたんですけど、東京のバンドもあつたんですけど、秋田から通って、ライブのときは何泊かするみたいな感じだった

たんです。なので、ここにいってもアウトプットしたいなと思って、宅録で一曲作ってYouTubeにあげたらわりと評判が良かったので、秋田でもバンドやりたいなと思つたのがきっかけです。

高橋 ちなみにブラジルへはどうして行かれたんですか？

英心 それは、お坊さんとして行つたんです。サンパウロにお寺があつて。

僕、そもそもブラジル音楽が大好きだったので。でもブラジルって治安も良くないし英語も通じないので、日本からはあんまり行きたがらないんですけどね。だからお坊さんが不足していると聞いて「あ、これは行くしかないな」ということで1年勤めました。そこからやっぱり本物を見たいと思って、キューバとかジャマイカとか中南米を旅して戻ってきましたね。

高橋 向こうで住職って、どんなことをされるんですか？

英心 基本的には日系人のためのお寺だったんです。日本からの移民がたくさんいらつしゃって、その日系移民の方たちの心の拠り所としてのお寺っていうのが最初の性格だったんですけど、曹洞宗って坐禅をすごい大事にするんですね。この坐禅がものすごい好きな

方があちらにいらつしゃるんですよ。

高橋 日系人の方々のなかに？

英心 日系人よりも、むしろ、日系の血が入っていないブラジルの人たちのなかに坐禅を好きな方がけっこういて。っていうのも、80年代くらいからアメリカで、坐禅とかメディテーション（瞑想）の人气が高まってきて、マインドフルネスと言われるような、自分の内面を整える発想のものが注目されてきたんですね。そういうアメリカの広がりによって遅れて南米にもその動きが出て、坐禅を教えるとか、お経の読み方を教えるとか、そういうことも仕事になっていました。

高橋 何歳くらいに行かれたんですか？

英心 いまから9年前だから25〜26歳とかですね。

高橋 音楽もすでにやられてたんですよね？

英心 そうですね。音楽の修業がしたいっていうのも一つ理由としてありました。なので日中のお勤めとか坐禅が終わったら、パーカッションを習いに行ったりして。

高橋 現地の？

英心 そうですね。元々、僕はパーカ

ッションリストとして活動してたので、いろんな国のパーカッションを覚えたいなと思って。大学時代もブラジル音楽をやつたので。

高橋 坐禅を教えながらパーカッションを。

英心 ええ。でも向こうは本物じゃないですか。僕はただ憧れを持って触れさせてただけで、いくらがんばってもこういう人たちみたいにはなれないな思つたんですよ。だから逆に自分のルーツってなんなんだろうって。それが僕にとっては秋田だったし、このお寺というか、仏教だったっていうことに気づけた。

高橋 なるほど。

英心 この人たちにはこの人たちのルーツがあるから、こういうグルーブが自然と出せるんだろうけど、いくら同じようにやっても出せないグルーブっていうのがあるんですよ。これはたぶん努力とかの問題じゃないのかもなつて思つたのが大きくて。僕がキューバでコンガっていう楽器を習つたときに、先生の4歳の孫がクラベスっていう拍子木をものすごい正確に叩くん

ですよ。4歳からこんな正確にこのリ





ズム叩けるんだと思ったら、これはもう全然違うんだと思っちゃって。じゃあ自分の中には何かあるんだろう？って考えるきっかけになったというのがありますね。

高橋 僕も北海道に行って、東京行って、秋田じゃないところで秋田の話を聞くたびに、秋田の食べ物とか自分が住んでた場所の魅力を思い知らされて帰ってくるみたいなのがあるんですけど、僕はまだ東京に住んでるので、



じゅんさい一つとっても、なんで住んでたときにこの魅力に気づけなかったんだろう？って思うんですよ。一回離れて、その良さを知って、自分の流れてる血がどうしようもなく秋田県人だったというのを知って帰ってくるみたいなの。今朝じゅんさい摘みをしててもそう思ったんですよ。

英心 そうですよ。

高橋 ちなみにレコーディングはどうしてるんですか？

英心 レコーディングもここですね。

高橋 ここでやってるんですか？

英心 ここでやっています。厳密に言うとファーストアルバムは外のお堂で録ったんですけど、セカンドは自分の部屋で録りましたね。

高橋 え、すごいですね。やってることが新しいですよ。

英心 できちゃいますからね。スタジオに入らないで、家で音出せるんだから家でやろう、手の届く範囲で楽しんでいこうっていうのがコンセプトなので。無理をしない、お金をかけない、できることをやるっていう感じですね。

高橋 今年でいうと、図らずもということなのでしょうけど、ソーシャルディスタンスとか、ステイホームみた



いな予期せぬことが起きて。変化していく時代のなかで、どれも背いてないというか。

英心 たしかにそうかもしれないですね。実際、わたしの生活もコロナ禍でもあまり変わらないですよ。音楽活動としてはライブがなくなってますけど、それだけは寂しいですけど。この辺ではコロナであろうと、なからうと、穏やかな生活が送れるんだなって実感してますね。

高橋 そんななかでも、音楽はやっぱり奏でられ続けてほしいなと思いますね。何があっても。

英心 はい。本当に。

そして最後に英心さんが歌ってくださったのは、いまあるものに満足すれば心が穏やかになるという「少欲知足」の教えを込めた、英心&The Meditationalsの代表曲『秋田濃厚民族』でした。



自分の生まれた環境のせいにしてしまう人は多いと思うんです。また、そういう人ほど、誰かの行動に文句も言いがちな気がしています。自分がいる場所を誰かのせいにしていない人は、人の文句も言わなくなると思うんですよ。自分がいる場所を楽しくするのに必死だから。英心さんも、とにかく自分が楽しいと思つたことを伝えたいっていう気持ちに溢れますよね。めちゃめちゃわくわくさせてもらいました。

— 高橋 優

ねぶり流し館

今回、取材旅をした8月頭は、本来ならば、秋田市の夏の夜を提灯のきらびやかな明かりが埋め尽くす「秋田竿燈まつり」の開催期間でした。青森ねぶた祭（8月2日〜7日）、仙台七夕まつり（同6日〜8日）とともに「東北三大祭り」に数えられる「秋田竿燈まつり」は、長さ12メートル、重さ50キロもの巨大な竿燈を差し手たちが華麗な技のリレーで差し上げ、その姿を見ようと、例年、4日間の会期中に130万〜140万人の観客が集まります。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年の開催は中止に。約270年の歴史のなか、中止となったのは、戦時中の1938〜45（昭和13〜20）年以外で初めてだそうです。

そこで向かったのは、竿燈まつりに関する資料を展示する、秋田市民俗芸能伝承館（愛称・ねぶり流し館）。こちらのスタッフであると同時に、竿燈の差し手でもある貴志冬樹さん（上米町一丁目竿燈会）にお話を伺います。



貴志 元々、竿燈まつりは、「ねぶり流し」というもので、この「ねぶり流し」は、労働の妨げになる睡眠、災い、病魔を払う「眠り（ねぶり）流し」ということで、笹に、願い事や絵馬を吊るして町を練り歩いたのが竿燈の始まりだといわれています。

高橋 七夕行事？

貴志 そうです。旧暦の七夕のころに行われていた行事なんです。なので、いまでもその名残として、必ず竿燈の提灯には「七夕」という文字が書かれています。

高橋 は〜！ 気づかなかった！ ほんだ。



竿燈の演技は、差し手たちが繋ぐ5つの技のリレーで構成される。「力四分に技六分」と表現される竿燈の奥義。力より技が重要であるとされる。

1. 流し
2. 平手
3. 額
4. 肩
5. 腰

額



肩

継竹をしていくほど、徐々に竹がしなっていきます。



平手



腰



流し



貴志 なので、この祭りは、病魔や邪気を払うことから、いまこそやるべき行事でもあると思うんですが、大勢の方が集まるといことが難しいので、残念ながらできませんでした。

高橋 そうですよ。

貴志 元々はそういうことで、提灯を担いで練り歩いて、力比べや力自慢をするようなものだったのが、時代の流れとともに、体のいろんな場所に乗せて演技をする、技を見せるお祭りに変わっていきました。

高橋 へ〜！ 初めて知りました。

貴志 ここからは、竹をどんどん継いでいく様子や、竿燈の5つの技を見ていただければと思います。

高橋 はい！

竿燈妙技会

貴志 いまご覧いただいたものが、竿燈の演技の一連の流れなんですけど、外での演技なので、風があります。風があればあるほどしなりが強くなりますし、また、提灯にろうそくの灯りも入りますので、できるだけ提灯を揺らさないように演技をする。非常に大変です。

高橋 天候に大きく左右されるんですね。

貴志 風の運もありますね。妙技会というの、日中に行われるんですけど、でも、そういう運も味方につけたもの

が、その年の優勝チームになる。そして夜は自由に、それぞれが練習した成果をお客様に披露する。なので日中は、町内同士の意地のぶつかり合い、真剣勝負の世界です。

高橋 (最も難易度の高い)「腰」ができるまで、何年くらいかかるんですか？

貴志 約5〜10年かかるといわれています。基本の技を覚えるのにそのくらいかかるので、継竹を高く足して演技するには、もっと時間がかかります。

高橋 貴志さんは、いまおいくつですか？

貴志 わたしはいま、26歳です。

高橋 若っ！じゃあ、すごく若いと

きからやられていたんですか？

貴志 2歳のときからですね。

高橋 !

貴志 お腹の中にいるときから音は聞いていたんでしょ？

と、小さい頃から祭りには欠かせず参加しています。それで20歳のときに、妙技会で優勝させていただきました。

高橋 優勝!?

貴志 個人戦といって、先ほどの5つの技を一人で披露するものがあって。5つの技を5人1組でやるのが団体戦。個人戦のタイトルを取ると名前が残ります。

高橋 その年齢でタイトルを取るといのは、相当早いんですよね？



貴志 そうですね。高校生くらいになると、みんな大きい竿燈を持つんですけど、ちなみに、いま見ていただいた竿燈、これは中学生用のものなんですよ。

高橋 え!?

貴志 「中若」といって、重さが約30キロくらいあるんですけど、ここは天井の高さに限りがあるのでこの竿燈で

披露しました。祭り本番の際に我々が披露しているのは、あちらにある「天若」で、提灯の大きさも大きくて、竿も太い。竿を足していくと、18〜20メートルくらいになります。

高橋 けがとかはしないんですか？

貴志 大きなけがはないんですけど、祭りの際は4日間毎日演技しますので、いくら手拭いをしていても、さら



しを巻いていても、中で皮がめくれてしまう。ただ、我々としては、そういう傷ができるのも勲章といえますか。

高橋 愚問かもしれませんが、これをするのモチベーションというのはどこにあるんですか？

貴志 個人的には、日常生活で大勢の方から拍手を頂戴する機会っていうのはなかなかないですし、祭りは集団で出ますけれど、いざ竿を持って一人ですら、一人の演技によって、たくさんの方から拍手をいただける、というのはなかなか経験できないことで、それがモチベーションになっているかなと思います。

高橋 乗せているときの体が全くブレないんですね。体づくりはされているんですか？

貴志 特にしたことはないですね。ただ、普段の練習のなかで足の動きを身に付けるんですけど、



右が貴志冬樹さん、左はサポートしてくださった世継貴弘さん。

動いていないように見えて、意外と足の指に力がかかったりとか。

高橋 それってジムで身に付けるような体幹が備わってないといけないですよね。

貴志 そう言っていたらとありがたいです。

高橋 そばっかり見ちゃった。もちろん、上(竿燈)はすごいんだけど、貴志さんの身体の動きを見ました。

貴志 実はそういうのを見てほしいです。みんなどうしても上に目がいつてしまってます。

高橋 絶対、女子は体見てる。

貴志 ははは！ たしかに差し手に注目していたら、上げる格好も形も人によって全然違うのがわかると思います。

高橋 僕は歌を歌わせてもらっているんで、マイクの持ち方一つでもそうだし、肩に力を入れている人、抜けている人……どの体勢でバランスを保っているのかにすごく興味があるんですよ。

貴志 そういう部分も見てもらえると、この祭りももっと楽しくなるのかなって思いますね。

高橋 来年は竿燈大通りで演技されるのを見てみたいです。



能代市

能代七夕
「天空の不夜城」

上部に鯉を掲げる城郭型の灯籠を引き、街を練り歩く能代伝統の七夕行事「能代役七夕」(8月6日、7日)。2013年、「天空の不夜城」と題して1世紀ぶりに五丈八尺(17.6m)の大型灯籠が復活。さらに翌年から24.1mの巨大な灯籠も登場。役七夕に先立ち運行される。

開催日 8月3日、4日
会場 国道101号(能代市役所~通町)

編笠や亡者を思わせる彦三頭巾で顔を隠し、端縫い衣装や藍染の浴衣に身を包んだ踊り手たちが、しなやかな手捌きで優美に舞う。勇ましさや哀愁を帯びた囃子、かがり火とともに幻想的な世界をつくる。日本三大盆踊りの1つ。

開催日 8月16日~18日
会場 西馬音内本町通り

羽後町
西馬音内盆踊り

国重要無形民俗文化財



湯沢市

七夕絵どうろうまつり

江戸時代中期、湯沢の佐竹南家に京都から興入れした姫君が、故郷への郷愁を五色の短冊に託して青竹に飾り付けたのが始まり。約300年の歴史がある。浮世絵や美人画が描かれた大小100を越える絵どうろうと短冊を飾った青竹が街を彩る。

開催日 8月5日~7日 会場 湯沢市中心商店街



秋田の

夏祭り

秋田竿燈まつりの他にも、さまざま七夕行事や夏祭りが受け継がれている秋田県。その中から一部をご紹介します。勇壮、優美な夏の風情を、ぜひ来年は秋田を旅してお楽しみください。



鹿角市

花輪祭の屋台行事
(花輪ばやし)

国重要無形民俗文化財

地域の守り神「幸稲荷神社」に奉納される祭礼ばやし。日本三大囃子の1つ。10町内による豪華絢爛な屋台のそり踏みや、熱気あふれる囃子の競演に圧倒される。ユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つ。

開催日 8月19日、20日
会場 JR鹿角花輪駅前周辺

秋田市

土崎神明社祭の曳山行事
(土崎港曳山まつり)

国重要無形民俗文化財

港町・土崎の土崎神明社の例祭。武者人形を飾った曳山を引き、各町内が街を練り歩く。曳山の上で演奏される「港ばやし」や合間に披露される秋田音頭などの踊り「演芸」にも注目を。ユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つ。

開催日 7月20日、21日
会場 土崎神明社 周辺

